

商 業

1 学習指導の改善・充実

(1) 学習指導の改善・充実の視点

教科「商業」においては、商業の各分野の学習を通して、顧客満足実現能力、ビジネス探究能力、会計情報提供・活用能力、情報処理・活用能力といったビジネスの理解力と実践力を身に付けさせるとともに、ビジネスに必要な豊かな人間性を育み、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人の育成を目標としている。

このような人材を育成するため、商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させるよう、目標をもった意欲的な学習を通して知識と技術の定着を図るとともに、単に知識や技術を習得させることにとどまらず、知識と技術を活用する上で必要となる思考力、判断力、表現力等を育成すること、ビジネスの場면을想定した指導をすることなどが大切である。

また、各科目の指導に当たっては、ビジネスの諸活動に関する具体的な事例を取り上げ、考察、討論、発表することやビジネスに関する具体的な課題を設定し、地域や産業界と連携して、様々な情報を収集・分析・評価し、発表するなどの効果的な学習指導を行うことが重要である。

(2) 効果的な学習指導

各科目の目標に応じた効果的な学習指導を行うためには、次のような事項に配慮する必要がある。

ア 具体的な事例を取り上げた学習の充実

- ・「ビジネス基礎」では、新聞、放送、インターネットなどの活用、経済活動の具体的な事例を取り上げたケーススタディやグループでの考察などを通して、経済社会の動向に着目させるようにする。
- ・「ビジネス経済応用」では、新聞、放送、インターネットなどを活用し、我が国の経済の動向に着目させるとともに、企業活動の具体的な事例を取り上げ、適切な企業活動の在り方について討論などを通して主体的に考察させるようにする。
- ・「財務会計Ⅱ」では、新聞、放送、インターネットなどを活用し、会計情報が企業の経済活動に及ぼす影響について具体的な事例を取り上げ、ケーススタディや討論などを通して、企業会計に関する法規や基準に従った会計処理と監査の重要性について主体的に考察させるようにする。

イ 具体的な課題を設定した実践的、体験的な学習の充実

- ・「ビジネス実務」では、具体的なビジネスの場면을想定したロールプレイング及び具体的な課題を設定してビジネスに関する実務を習得する実践的、体験的な学習を取り入れるようにする。
- ・「商品開発」では、企業における商品開発の具体的な事例を取り上げ、ケーススタディなどを通してその特徴などについて理解させるとともに、地域産業の特色などを踏まえて具体的な課題を設定し、商品の企画・開発・流通を計画する実践的、体

験的な学習を取り入れるようにする。

ウ コンピュータや情報通信ネットワークを活用した学習の充実

- ・「電子商取引」では、情報通信ネットワークを活用した商取引や広告・広報に伴う様々な課題について、具体的な事例を取り上げ、関係法規や情報モラルと関連付けて考察させるとともに、ウェブページを制作するための配色や構成など、デザインに関する基礎的な知識と技術を習得させることに加え、利用者の立場に立ったウェブページを制作する実習を取り入れるようにする。
- ・「ビジネス情報管理」では、情報通信ネットワークを運用する際に起こりうるシステム障害についての具体的な例を用いてその予防や対策を考察させる実践的な学習、情報通信ネットワークの構築・運用管理及び販売情報システムや財務情報システムの開発に関する実習を取り入れるようにする。

2 評価方法の改善・充実

(1) 学習評価の基本的な考え方

学習評価は、評価の4観点に基づく観点別学習状況の評価を踏まえながら評定を行い、生徒一人一人に学習指導要領の内容が確実に定着するよう、学習指導の改善につなげていくことが重要である。

本手引の評価に関する記述は、国立教育政策研究所教育課程研究センター作成「平成24年度高等学校産業教育担当指導主事連絡協議会」配付資料を参考としている。

商業科の目標と特性に応じた評価の観点及びその趣旨は次のとおりである。

商業科の目標

商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスの意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって行い、経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

商業科の特性に応じた評価の観点及びその趣旨

関心・意欲・態度	ビジネスの諸活動に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
思考・判断・表現	ビジネスの諸活動に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。
技 能	商業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
知 識 ・ 理 解	商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、ビジネスの意義や役割を理解している。

(2) 学習評価における配慮事項

学習評価については、きめの細かい学習指導の充実と生徒一人一人の学習内容の確実な定着を図るため、知識や技能のみの評価など一部の観点に偏した評価が行われることのないように観点別に評価を行い、それを十分踏まえながら評価を行う必要がある。

学習指導要領に示す商業科の目標に基づき、学校が地域や生徒の実態に即して評価規準を作成する。生徒の学習の実現状況を適切に評価し、その評価を指導に生かすことが重要である。

評価方法については、各学校で商業科の学習活動の特質、評価の観点や評価規準、評価の場面や生徒の発達段階に応じて、観察、生徒との対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、面接など様々な評価方法の中から、その場面における生徒の学習状況を的確に評価できる方法を選択していくことが必要である。

3 学習評価の具体例

「平成23年度高等学校教育課程編成・実施の手引」専門教育に関する各教科「商業」3言語活動を充実する学習指導の実践例（以下「学習指導の実践例」という。）を基に作成している。

(1) 「ビジネス基礎」の学習評価の例

【単元の指導計画の例】

科目名	ビジネス基礎		単元名	商業の学習ガイダンス（3時間）		
単元の目標	商業の学習と職業との関連及び卒業後の進路についてのガイダンスを行い、自己の進路について考えさせる。					
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解		
評価規準	商業の学習分野と職業について関心を持ち、商業の学習分野と職業との関連及び卒業後の進路について探究しようとしている。	商業の学習分野と職業との関連及び卒業後の進路について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現している。	商業の学習分野と職業に関する資料を収集し、得られた情報のもつ意味を読み取り、整理している。	商業の学習分野と職業に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、商業の学習分野と職業との関連及び卒業後の進路を考えることの意義について理解している。		
時数	学習活動		評価の観点		評価規準 [評価方法]	
	関	思	技	知		
1	○ マーケティング、ビジネス経済、会計及びビジネス情報の4分野から専門的能力を身に付けた職業にはどのようなものがあるかを調べ、ワークシートにまとめる。		●			・商業の学習分野に関わる職業に関心を持ち、卒業後の進路について探究しようとしている。 [ワークシート]

【ワークシートの例と「おおむね満足できる」状況（B）と評価される例】

商業の学習ガイダンス

I 商業の学習分野の中から、自分の興味のある分野の職業について調べよう。その職業の内容、地域の具体的な企業名、有利な資格、履修する科目について、グループ内で発表しよう。また、グループの他のメンバーの発表内容を記入しよう。【関心・意欲・態度】

1 職業について調べた内容を記入しよう。

商業の学習分野：（会計）分野

職業：（銀行員）

職業の内容：（窓口で、口座を作ったり、預入、払出などの仕事をする。）

地域の具体的な企業名：（〇〇信用金庫）（〇〇銀行）

有利な資格：（全国商業高等学校協会簿記検定）（日本商工会議所簿記検定）

履修する科目：（ビジネス基礎）（簿記）（財務会計Ⅰ）（財務会計Ⅱ）（原価計算）
（管理会計）

2 グループの他のメンバーの発表内容を記入しよう。

(1)

商業の学習分野：（マーケティング）分野

職業：（販売員）

職業の内容：（お客様が商品を選ぶ時に、相談に乗ったり、レジでお金のやり取りをして、買った物を包装するなどの仕事をする。）

地域の具体的な企業名：（洋服の〇〇）（〇〇スーパー）

有利な資格：（全国商業高等学校協会商業経済検定）（日本商工会議所販売士検定）

履修する科目：（ビジネス基礎）（マーケティング）（商品開発）（広告と販売促進）

3 自分の卒業後の進路に向けた学習内容や学校生活等についてまとめよう。

将来は、金融機関で働きたいと考えています。そのためには、会計分野やビジネス経済分野の勉強をがんばることと、簿記の資格を取得したいと思います。また、遅刻や欠席などをしないようにしたいと思います。

<p>○「3 自分の卒業後の進路に向けた学習内容や学校生活等についてまとめよう。」の生徒の記入例</p> <p>【「十分満足できる状況（A）」と評価される例】</p> <p>将来は、金融機関で働きたいと考えています。そのためには、会計分野の学習だけではなく、他の3つの分野の学習にも取り組み、簿記の資格をはじめ多くの資格を取得したいと思います。また、遅刻や欠席などをしないことや、部活動や委員会活動にも積極的に取り組みたいと思います。</p> <p>【「努力を要する状況（C）」と評価される例と教師の指導（生徒への指導の手立て）】</p> <p>将来は、銀行で働きたいと考えています。そのためには、簿記検定に合格したいと思います。</p> <p>■教師の指導（生徒への指導の手立て）</p> <p>金融機関の仕事内容を理解させ、他の3分野の学習内容も関連することについて考えさせる。</p>

(2) 観点別評価の進め方

この学習指導の実践例では、ワークシートの記述から課題に取り組む状況を読み取り「関心・意欲・態度」の観点での評価を記述した。この他、観察（「思考・判断・表現」）、発表用資料（「技能」）、レポート（「知識・理解」）により評価を行う場合の留意点は次のようになる。

ア 観察

「思考・判断・表現」の観点で評価を行う場合には、生徒がグループで話し合い、その結果をまとめる過程において、グループの中でどのような役割を果たしているかを観察するとともに、話し合いにおける特徴的な場面を見いだして評価する。また、発表のために、思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現しているかを評価する。

イ 発表用資料

「技能」の観点で評価を行う場合には、情報のもつ意味を適切に読み取り、それを整理しているかを評価する。

ウ レポート

「知識・理解」の観点で評価を行う場合には、レポートの内容から、学習活動を通して必要な知識を身に付け、理解が深まっているかを評価する。

上記の方法で評価した結果、「十分満足できる」状況と「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立てについて、各観点から一例ずつまとめると次のようになる。

観点	学習活動に即した評価規準	「十分満足できる」状況と判断した具体例	「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て
関心・意欲・態度	商業の学習分野に関わる職業に関心をもち、卒業後の進路について探究しようとしている。	商業の学習分野に関わる職業について積極的に情報を収集し、得られた情報から、自己の卒業後の進路を見据え、意欲的に探究しようとしている。	生徒にとって身近な職業を例として挙げ、興味を喚起する。

思考 ・ 判断 ・ 表現	調べた職業に就くための 討論を通して、思考を深め、 適切な考えを述べることができ る。	他者の意見を踏まえなが ら、職業に就くために必要 な学習や資格などについて 踏み込んで思考し、自己の 考えを適切に表現している。	調べた職業と必要な学習 や資格などについて、発表 できるようにまとめさせる。
技能	グループ内での話し合い から、意見を整理するとと もに、収集した情報のもつ 意味を読み取り、整理して いる。	グループ内での話し合い から、意見を整理するとと もに、収集した情報のもつ 意味を読み取り、整理し、 聞く側の視点に立ち具体的 にまとめている。	話し合いに出された情報 の内容が正しいか調べるよ う指示し、情報を収集する きっかけを与える。
知識 ・ 理解	自己の進路についての考 察を深めながら、商業の学 習と職業との関連を理解し ている。	各グループの発表内容を 踏まえ、商業の学習分野と 職業との関連を深く掘り下 げて具体的にまとめ、卒業 後の進路を考えることの意 義について理解している。	これから学習する商業科 目の内容に触れ、職業との 関連を確認させ、卒業後の 進路を考えることの大切さ に気付かせる。

観点別学習状況の評価においては、生徒の状況を分析的に捉えることができることから、評価の結果をその後の学習活動の改善に生かすとともに、生徒の状況に応じて適切に手立てを講じるなどきめの細かな指導や生徒一人一人の学習を確実に定着させる指導を充実させることが望まれる。

(3) 観点別評価の総括

観点別評価を総括する場面として、単元における観点ごとの評価の総括、学期末における観点ごとの評価の総括、学年末における観点ごとの評価の総括が考えられる。

また、評定への総括の場面としては、学期末や学年末が考えられる。

総括の考え方としては、「十分満足できる」状況と判断されるものをA、「おおむね満足できる」状況と判断されるものをB、「努力を要する」状況と判断されるものをCとして評価を行いその組合せにより総括する方法、A、B、Cを数値化してその平均値を基にして総括する方法など様々なものがある。

例えば、Aを3、Bを2、Cを1として観点ごとに平均値を求める方法の場合、平均値が2.5より大きい場合はA、1.5以上2.5以下の場合はB、1.5未満の場合はCを単元における観点ごとの評価とすることが考えられる。

単元における観点ごとの評価であるA、B、Cの組合せから評定に総括する場合、各観点とも同じ評価がそろえば、「AAAA」であれば4又は5、「BBBB」であれば3、「CCCC」であれば2又は1とするのが適当であると考えられる。それ以外の場合は、各観点のA、B、Cの数の組合せから適切に評定する必要がある。

観点別学習状況の評価の総括については、様々な考え方があることから、科目の特性や具体的な学習活動などを踏まえて、総括の場面や方法を工夫することが大切となる。